

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177300043		
法人名	医療法人仁恵会		
事業所名	認知症高齢者グループホームあさひ(こぶし)		
所在地	芦別市旭町60番地1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0177300043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあさひ運営理念を基に、入居者様のリスクマネジメントとそのらしさ、および尊厳を考えた暮らしを提供しています。またチームケアを主体とした、支援を行っています。……………これからも医療・介護の複合体として、安心・安全のケアサービスを掲げて邁進している事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人は、芦別市において医療・障害・高齢分野でそれぞれに特徴を持つ施設を運営し、多様な要望に応える機能を備えている。当事業所は自然と調和がとれ、広々とした環境の中で利用者がゆとりを持って暮らせる住空間となっている。施設長は運営方針を示し、職員自ら理念を作り直しチームケアを推進していく過程を大切にしており、利用者が楽しく笑顔で生活している様子が窺える。また、職員は穏やかな接遇で利用者へ寄り添いながら、自主性を尊重したケアを行っている。栄養士の資格を持っている職員がおり、発酵食品や繊維質の多い野菜など調理に工夫し食事を大切にしている。また、利用者と職員は和やかに一緒に食事をしており、自然な会話から本人の食べたいものを把握してメニューに取り入れている。耳鼻咽喉科など他市の専門医への受診は職員が対応し、的確な医療支援に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を持ち寄って作り上げた運営理念を事業所内に掲示している。また職員研修・外部講師依頼・広報の素材としても活用して、運営理念の浸透にとり組んでいる。	チームケアを全職員で推進するため、法人の基本姿勢に沿った5つの理念を作り、職員は自ら考え行動することを大切にし、情報の共有化に努めている。また、広報誌などで事業所が目指すサービスを地域へ発信している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年、夏祭りの一環として焼肉など開催している。地域の協力や参加を得ながら今後も、より多くの参加をしていただくよう広めていくことを課題としている。	市の依頼で認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、中学生の職業体験を受け入れたりするなど、事業所が育んできたノウハウを地域に還元している。また、町内の清掃や廃品回収に参加し、事業所の催しに招くなど、できる限り地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が主催した市民向けの講座の講師等もやっている(認知症サポーター講座実施、男性向け料理教室など)。市内の学校の職業体験学習で生徒を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの状況報告に基づいて話し合いをし、「防災」「緊急時対策」「緊急時備蓄品」の取組みや「地域との交流」を題材に外部の意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的開催し、事業所の取組み状況の報告などを行っている。また、自然災害時用の非常食を展示し、取り扱い方法を案内するなど家庭でも役立つ防災対策も情報提供している。	運営推進会議は、今後も幅広いメンバーの出席を求め、多角的な意見交換が行われるよう期待する。また、家族に会議の内容を報告するなど、運営推進会議に関心を持ってもらえるような取組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の指定機関として受給者を受け入れ、市の担当窓口と連絡を取りながら利用者の支援を行っている。	事業所の運営を適切に行うため、介護保険課、保護課担当者や利用者の状態などについて積極的に連絡を取り合っている。また、法改正などその都度助言や指導を受けながら、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規採用時の研修および施設内研修時「身体拘束」の講義を行い職員間に周知徹底している。現在玄関は安全上ご家族の理解を得て中から簡単に出られない措置を取っているが、利用者に圧迫感を感じないようケアに取り組んでいる。	事業所のマニュアルや内部研修などで身体拘束しないケアや虐待防止について学んでいる。また、玄関に施錠しない取組みを模索しており、職員間で共有したケア認識を実現できる環境を整えたいとの意向を示している。	玄関については、利用者の生命と安全を第一に考えたうえで検討し、具体的に取組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時研修や施設内研修で「虐待防止」の講義を行い職員間に周知徹底している。高齢者虐待ネットワーク会議に参加し職員間で情報を共有している。管理者は日常の職員指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規採用時の研修で説明をしている。今後は社会福祉協議会との連携を進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金などの変更時には、説明会の開催や文書で理解を頂き、意思疎通をはかりながら一方的にならないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設時から現在に至るまで直接、ご家族からの意見が多く、職員全員に周知している。「ご意見箱」を設置しているが、活用されていないのが課題になっている。	担当制にしており、家族が率直な意見や要望を気軽に話せる環境づくりに努めている。家族からの意見は、「生活記録」に分かりやすく記載し、全職員で共有し運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度より業務改善委員会の開催回数も増えているが、代表者へ提案した内容が実施されないこともある。今後も代表者に提案を継続していく。	法人からも出席する定例会議などで職員の意見や提案などを聞いている。職員が施設長に意見を言いやすいと感じられる関係を作り、今後は各職員のモチベーションの維持に繋がるよう話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員と面接を行って、職員の希望や悩み等を把握するように努めている。一方、職場環境や昇給などについて意見交換の機会を希望する職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で就業後に「院内勉強会」を随時開催し、希望者に参加する機会を提供している。今後は施設外研修には、各職員の参加を予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	日本認知症グループホーム協会に加入する他、近隣のグループホームや、市内事業所の「みんなで介護を考える会」による活動等を通じ、サービス向上に取り組み、今後も各職員の交流研修を予定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの提供を前提に、本人の施設見学や自宅での面接などを行い、既に利用しているサービス提供者からの情報も活用して、本人のニーズの把握を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聴きながら、事業所として、出来るサービスの範囲を家族に十分理解して頂いてから入居して頂いている。入居後も相互の信頼が維持出来るように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービスの内容と利用者様希望のニーズが適合しない場合は、十分に説明して本人に相応しい他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の「生活の場での役割」を重視した支援を、その人の希望や能力を考慮しながら行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければできないことを大切に、面会時や電話等の機会を通じて役割を担って頂いている。キーパーソンの方にはご本人の状況を理解して頂くよう、定期的に随時に報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化に伴い、身体的機能の低下が著しいため、ご家族には常に報告している。ご家族と施設が連携しながら馴染みの場所には、ご家族が対応している。	知り合いが訪れた際には、居室にてゆっくりできるようなお茶などを提供し、関係が継続できるようサポートしている。また、家族の協力を得て買い物に行くなど、利用者の関係性を大切にしたい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りや記録、観察、コミュニケーションを通じて利用者同士の関係を把握し、家事や余暇活動、行事の中でお互いが交流し関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに移行した場合に、同意のもとに情報提供を行っている。可能な範囲でサービス利用時や終了後にご本人との面会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士、情報を共有し、アセスメント等を行い利用者の検討を行っている。担当制を敷いて、担当者が利用者様の希望や状態の把握を行っている。	職員は一人ひとりの個性や思いを尊重し、菜園・花畑活動や食事の手伝い、習字など利用者が自らの考えで行動し、主体的に自分の生活を楽しめるよう、個別ケアを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からは入居時や面会時の際に把握をし、本人からは日々の生活を通じて継続した情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員夫々の視点を通して得た情報を共有しチームケアに繋げて、日々の支援に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にもたまた必要に応じてケアプランを見直している。状態によって随時モニタリングを行い、現状に即したチームケアができる体制を敷いている。	職員を担当制にし、利用者の心身の状況を「生活記録」に記録し、ケアの内容を家族に伝えていく。また、全職員の意見を取り入れ、本人・家族の意向も反映させながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録とチェックシートを活用しモニタリングを行い、具体的な介護に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の事情に応じて通院や送迎の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの団体や個人に働きかけ、活動を受け入れている。今後もボランティアの開拓をして行き、入居者の方々に喜んでいただきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による定期診察の他、希望する専門の診療科の受診支援を行っている。	主治医への定期受診時には、医療機関と連携を密にし、待ち時間を少なくしている。また、耳鼻咽喉科や整形外科など他市の専門医への受診も、ほとんどが職員対応で通院支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関の看護師と医療連携の体制を敷いて、病気の予防と重度化の防止の相談に応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関の看護師と医療連携の体制を敷いているので、退院後の予後についてのフォローも継続性が確保されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化の対応」について説明を行い、文書を取り交わしている。随時家族には今後の方向性を確認している。	終末期のあり方などは、契約時に文書にて方針の統一を図っている。看取りの支援に移行する際は、主治医、母体病院の相談室などと連携し、本人及び家族の同意をもって移行支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを提示して、備えている。また毎年「普通救命訓練」を市の消防署で全員が受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の食品等を用意して、定期的に食料の試食、補充を行っている。自然災害に対する対策、地域、法人との連携が重要であるので、今後も継続し協力体制を強化していきたい。	利用者が安全な場所に避難できるよう、夜間を想定した避難訓練を、消防署の協力のもと実施している。また、防災の日に地域の方々の参加を得て、「非常食の使用訓練」をすることで、災害の意識向上を図っている。	周辺は土石流警戒地域でもあり、水害などについてもシュミレーションや災害時の連絡方法、協力者の役割について明確にし、共有することが望まれる。また、市の防災訓練に参加するなど、事業所の減災対策がなされるよう期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の言葉かけを始め日常的な言葉掛けに配慮が不足する場面があると思われる。これを課題に、個々の自覚や職員同士注意しながら適切な言葉かけができるようにしたい。	職員は「一人ひとりの尊厳の尊重」という運営理念を大切に、実践につなげている。介護の仕事が初めての職員には、施設長とリーダーが時間をかけて、接遇、プライバシーの確保などについて啓発と助言を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で利用者の発言の機会を設け、コミュニケーションが困難な場合は非言語的コミュニケーションにより自己決定につながるよう支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の希望に沿った支援が十分できないのが実情。活動性の低い方でも気軽に参加していただけるアクティビティを取り入れたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活歴を十分把握して、経済的範囲内で希望に沿った身だしなみやおしゃれができるよう、更に肌理細やかな気配りをもって支援していきたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者様の気持ちを尊重し、健康状態にも配慮しながら準備や片付けを一緒に行っている。食事の音楽や外食、季節の行事なども取り入れている。	栄養士資格を有している職員がおり、食材本来の味や食感を楽しめるよう工夫した食事を提供している。また、菜園で収穫した旬の野菜を取り入れながらメニューを作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェック表を活用し日々の必要量の確保支援をしている。個別に豆乳や青汁、ポカリスエット等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用したトイレ誘導を行い、自立でトイレ使用後にも排泄確認を行っている。利用者の力に応じて介護用品を使用している。	自然排便を促すよう食事を工夫し、豆乳などを個別に提供している。各ユニットに5ヶ所ずつトイレがあり、待たずにすぐ使用できる。記録や目視から排泄状況を把握し、声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・海藻類を多く使用した食事作りや、個別に豆乳・牛乳等提供し予防対策を行っている。個別に緩下剤を使用し便秘予防対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	便宜的には入浴の予定を決めているが、ご本人の体調(血圧・検温)や状況(精神面)に応じた入浴を支援している。	入浴は週2回を目安にしているが、それぞれの身体状況により清潔保持に配慮している。午後の時間帯に、1日3人を個別の状況や希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暗くないと眠れない方にはフットライトなど取り付け、寝具類の洗濯は定期的に随時行い、清潔な環境で睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の個別ファイルを作成し、変更時に確認できるよう整理している。服薬後の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のシートを利用し、ご本人の希望や意向に沿った役割、楽しみごとの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調や天候によって日常の戸外での活動(外気浴・散歩など)支援をしている。車両で定期的な外出も計画している。	買い物や散歩などは、できるだけ希望に沿っている。また、家族の要望による通院などの個別支援やレストランでの外食などの支援にも取り組んでいる。今後はより楽しめるような外出の実施を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力量に応じて少額の現金を持つことの大切さをご家族に説明していますが、物盗られを訴える利用者もいるため、お預かりすることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々のケースに応じて、通信の自由が確保できるよう対応している。希望に応じて施設の電話を使っていただくこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の壁を利用し毎月季節の飾り付けをし、スタッフと入居者様ができる事の支援を行っている。毎週1回地域の活け花の先生が来設し活け花を行い、入居者様は季節の花を楽しんでいる。更に快適に過ごして頂けるようにしたい。	ユニット間の長い廊下には、利用者が混乱しないよう扉を使用している。台所は対面式キッチンを設え、利用者が準備や後片付けなどに参加しやすい造りとなっている。居間には週替わりに生花が飾られるなど、癒しの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール食堂など、利用の多い共有空間では、もっと思い思いに過ごして頂けるように工夫をしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等を持ち込むことを勧めている。冬は暖かく過ごしていただけるもの、暑さ厳しい夏の時季に居心地良く過ごして頂けるように配慮が欠かせない。	出窓を設えており、明るく収納場所の多い造りになっている。居室の場所が分からなくなることがあるので、入り口に名前を明記して支援している。また、夜間にはフットライトを使い、安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表示をして場所の理解を助けている。夜間の居室内の安全対策として、フットライトを使用。		